

依頼メールの適切さに「構成」が関わるか

—日本人大学生への調査を通して—

坂本勝信, 山下浩一, 谷誠司, 康鳳麗¹, 小西知代², 森脇健夫³

Does “Structure” Influence the Appropriateness of the Request Emails?
-Through a Survey of Japanese University Students-

SAKAMOTO Masanobu, YAMASHITA Koichi, TANI Seiji,
KANG Fengli¹, KONISHI Chiyo², MORIWAKI Takeo³

2021 年 11 月 5 日受理

抄 録

本稿では、依頼メールの適切さに文章構成が関わるかを検証するために行った、日本人大学生 133 名に対するアンケート調査結果を分析・考察し、報告するものである。具体的には、「接点はあるが、弱い相手に依頼メールを送る」との指示・状況提示の後に、(A)「前置きをした後、状況説明をし、依頼をする」と(B)「前置きをした後、『用件から申します』を頭に据え、依頼をした上で、状況説明をする」の二種のメール例を示し、どちらのメールが「ふさわしいか」を 8 段階で評価してもらった。その結果、「依頼をした上で、状況を説明する」ことが好まれるとの仮説を支持する結果となり、社会言語能力に関わる選択であったことが示唆された。

キーワード：依頼メール、メールの文章構成、メールの構成要素、日本人大学生、社会言語能力

1. はじめに

コミュニケーション言語能力の一要素とされる社会言語能力は「相手との関係や場面に応じて適切に言語を使う力」と定義される(国際交流基金「JF スタンダードとは」)。松本・清水・岡野・久保(2004)は、口頭における母語話者との効果的なコミュニケーションは、言語知識に加え、社会言語能力を含めた総合的な伝達能力が必要であるとしている。そして、これらの能力は、自然習得は難しく上級レベルの学習者も、

¹ 鈴鹿医療科学大学

² 国際教養大学

³ 三重大学

社会言語学的、語用論的に適切な行為を行う能力が欠如しがちであるとする先行研究に触れている。母語話者との接触により、大量のインプットが得られる口頭とは異なり、Eメール作成となると、就職前の留学生の使用機会は多くないことから、「適切さ」に関する指導がより求められる。野田編（2005）は、「書くこと」にも「社会言語能力」が重要だと指摘し、依頼メールを例にどんな「件名」をつけ、どんなことをどんな順番で書くのがよいかなどを教える必要性に触れている。

そこで、本研究では、「依頼メールの適切さに文章構成が関わるか」を検証する目的で、日本人大学生 133 名を対象に、文章構成の異なる 2 種類の依頼メールを示し、いずれが適切かを問うアンケート調査を実施した。

2. 基礎的考察

2.1. 先行研究

2.1.1. コミュニケーション言語能力論における社会言語能力について

Hymes（1972）は、Chomsky（1965）の言語能力の概念が、実際に発話が起こる文脈でその適切さを決定する社会文化的要素を考慮に入れていないことを批判し、コミュニケーション言語能力を提唱した。義永（大平）（2005）は、言語形式を適切に使用する能力を社会言語能力と呼び、言語能力のみでなく、社会言語能力も含めたより広い概念として伝達能力（＝筆者ら注：コミュニケーション言語能力）を位置付けていると説明している。Canale & Swain（1980）は、コミュニケーション言語能力を、1）文法的能力、2）社会言語学的能力、3）方略的能力から構成されるものとし、社会言語学的能力は、「使用の社会文化的規則」と「ディスコースの規則」から成り立つとしており、発話行為的な語用論的側面は、扱われていない。Bachman（1990）が考案した、コミュニケーション言語能力のモデルでは、語用論的能力は発話内能力と社会言語学的能力からなるとされ、Bachman（1990）では、「（前略）社会言語学的能力によって私たちはその状況に適切な方法で言語の諸機能を遂行することができる」と説明する。

以上から、社会言語学的能力は、概ね「言語使用の適切性に関わる能力」という捉え方ができるが、その構成要素については、先行研究間で揺れが見られる。

2.1.2. 依頼メールの談話構成を扱った研究について

メール文の談話構成（談話展開）を扱った研究に宮崎（2007）（大学・大学院生 14 人）、由比（2015）（大学生 4 例）がある。それぞれ、「レポート作成のため、対面で話したことのない他の授業の教員にインタビューしたい」、「レポートを書くため、日本人の知り合いに家を見せてほしい」との依頼メールを送るタスクを課している。以下、両研究で得られたメール文の例と構成要素を示す。

宮崎⁴ (2007:180-181)

(前略)

[事情説明] 今「日本文化史」という授業を受けており課題レポートとして「沖縄の文化」について調べております。

[依頼予告] そこで、沖縄文化に詳しい岡本先生にインタビューをお願いしたいと思い、メールを差し上げました。

[依頼] お忙しいところ大変申し訳ないのですがよろしければ協力していただけないでしょうか。

由比 (2015:155)

(前略)

[切り出し] 今日はお願いがあってメールをします。

[理由説明] 以前佐野さんが古い伝統的な家に住んでいるとお聞きしました。僕が通っている大学で、日本の昼文化について調べるという課題が出ました。

[依頼] そこで佐野さんのお家をぜひ拝見させていただきたいのです。

(後略)

上記2つの研究における「事情説明」と「理由説明」は同義、また、「依頼」も同定義だろうと判断できるが、「依頼予告」と「切り出し」には異なりが見て取れる。由井 (2015) の「依頼予告」は「今日はお願いがあってメールします」と連絡の目的を簡潔に触れるに留めているのに対して、宮崎 (2007) の「依頼予告」は「そこで、沖縄文化に詳しい岡本先生にインタビューをお願いしたいと思い、メールを差し上げました。」と具体的な依頼内容（下線部）を含む形をとっている。以上から依頼メールにおける構成要素には共通点があるが、その名称及び、定義に揺れが見られることがわかる。

2.1.3. 依頼メールの構成要素の枠組みを調査した研究

YNU 書きことばコーパス⁵を使用して、依頼メールの構成要素の分析をし、枠組みを作成した研究に、谷・坂本・山下 (2021) がある。同研究では、作成作業に先立ち、宮崎 (2007)、熊谷・篠崎 (2006)、松田 (2009)、生天目・劉・大和 (2012) を参考に暫定的な枠組みを作成した上で、上記コーパスの日本人大学生の依頼メールデータの分析を重ねて確定をしている（最終的に 30 名のデータを分析）。

確定した枠組みは、件名、切り出し、自己紹介、前置き、状況説明、依頼、副次的依頼、対人配慮、挨拶、署名であった。うち、「前置き」、「状況説明」、「依頼」の 3

⁴ 宮崎 (2007) は、上記例以外に、「依頼予告」→「事情説明」→「依頼」で構成されるタイプの文章構成が 43% あったと報告している。しかし、出現した構成要素自体は、同じであったため、本稿では紹介を割愛した。

⁵ 横浜国立大学の留学生（韓国語母語話者 30 名、中国語母語話者 30 名）と日本人大学生（30 名）を対象都市、場面や読み手が異なる 12 の作文タスクを課して得た、計 1080 編の作文が収められている。

点について、その定義及び、例文を以下に紹介する。

表1 谷・坂本・山下（2021）の依頼メールの構成要素枠組み一例

構成要素	定義	例文
前置き	メール本文の始まりを知らせる (①挨拶、②対人配慮的な表現)	この度はお伺いしたいことがありメールを送らせていただきました。／実は、先生の研究室に所蔵されている本について、おうかがいしたいことがございます。
状況説明	依頼に至った理由や周辺情報を明らかにする部分	今回、授業のレポートの為に、田中先生がお持ちの『環境学入門』という本が必要になりました。／レポート作成の際に必要なので（お力をかけてもらえると嬉しいです。※依頼）
依頼	一次的依頼内容（単独あるいは前置きに組み込まれたもの）	①（よろしければ ※対人配慮）『環境学入門』という本を貸していただけないでしょうか？／今日は、『環境学入門』という本をお借りしたくて（メールしました。 ※前置き）

2.1.4. 依頼メールの適切さと「構成」との関わりを調査した研究

依頼メールの適切さと「構成」との関わりを調査した研究に、50名の日本人事務職員を対象にした、坂本・山下・谷（2021）の取り組み（以下「前回調査」とする）がある。前回調査では、宮崎（2007）・由比（2015）の「事情説明」・「理由説明」を「状況説明」、同じく「依頼予告」・「切り出し」を「前置き」と定義している⁶。その上で、文章構成の異なる2種類の依頼メールを示し、いずれが適切かを問うアンケート調査を実施している。

具体的には、接点のない相手（企業）に「インターンシップの詳細を教えてもらう」との設定の下、前置きをした後、(A)「状況説明をし、依頼をする」と(B)「『結論から申します』を頭に据え、依頼をした上で、状況説明をする」の二種のメール例を示し、どちらが適切かを8段階で評価させている。その結果、状況説明後に依頼をするのが好まれる、即ち、社会言語能力「適切さ」に関わる選択であったことが示唆されたとしている。フォーマル度の高い依頼を、面識のない相手にメールで送る場合には、依頼の前に状況説明が必要であるとの主張である。しかしながら、前回調査は、社会人を対象とした、ほぼ接点なしの相手に対する依頼メールの構成に限定された調査である。接点の強さや状況を変えた場合に好まれる文章構成が異なるか、異なる対象への調査が求められる。

3. 調査目的

高度な配慮が必要なメールを「接点のない相手」に送る設定であった、前回調査で

⁶ 「状況説明」「前置き」の名称は、2.1.3で引用した谷・坂本・山下（2021）と同じである。

は、「状況説明をした上で、依頼をする」のが望ましいとの結果だった。本研究は、前回調査と異なる状況を設定し、送信者と受信者の接点を「あるが、弱い」関係へと変えた場合、日本語母語話者がどのような構成を好むのかを明らかにする目的で調査を行うこととする。具体的には、メールアドレスを公開している大規模クラス担当の教員に対して、レポート提出期限延長を依頼するメール送付である（指示文と状況設定は、「4. 調査方法内、図 1」参照）。

筆者らは、本研究においては、まず、依頼をした上で、状況説明をするのが好まれるのではないかと仮説を立てた。その理由として、第一に、メールの受信者が受講する科目の大学教員で、弱い接点があること、第二に、教員にとってレポート提出期限延長依頼は、通常あり得ない出来事とまでは言えないこと、などが挙げられる。

4. 調査方法

本研究では、100 名を超える大教室にて講義をする教員に「レポート提出日延長を依頼する」メールを送る設定の下、前回調査と同じ二種の構成（A）（B）のメール例を示し、どちらが適切かを 8 段階で問うた。対象者は、文系学部所属の大学生 1 年～4 年 133 名（経営学部 80 名・外国語学部 53 名：男 73 名、女 60 名）である。また、参考にするために、民間の専門学校、日本語教師養成講座受講中あるいは、同講座修了後 1 年未満の社会人 13 名（男 4 名、女 9 名）にも調査を行った。主対象を大学生とした理由は、本研究のメール課題が、学年を問わず大学生にとって現実に関わり得る設定となっており、真正性が高いからである。

前回調査と本調査では、送信者と受信者との関係性が異なる。前者が「接点がない」であったのに対し、後者は、「接点はあるが、弱い」である。また、両調査は、接点の強弱以外に依頼内容の負担度等が異なると推測される。しかし、負担と感じる度合いを測る尺度がない。そこで、本研究では、副次的調査として、上記主調査実施の約 1 か月後に、今回の状況設定（接点・負担度・突然度・フォーマル度）の重みについても、対象者に 5 段階で評価してもらった（上記大学生⁷ 119 名：経営 74 名・外国語 45 名：男 64 名、女 55 名／社会人 13 名：男 4 名、女 9 名）。

本研究では、仮説検証のため、以下の指示・状況提示文（図 1）を示し、アンケート調査を実施した⁸。図 1 の指示・状況提示文の後に、（A）「前置きをした後、状況説明をし、依頼をする」と（B）「前置きをした後、『用件から申します』を頭に据え、依頼をした上で、状況説明をする」の二種のメール例を示し、どちらのメールが「ふさわしいか」を 8 段階で評価してもらった（設問 1）。また、設問 1 のように回答した理由を、4 択と「その他（自由記述）」から選択してもらった（設問 2）。

なお、（A）（B）間に内容及び、表現（「用件から申します」「つきましては」以外）

⁷ 主調査の対象者数との差分は、授業を欠席した人数である。

⁸ 調査に使用したアンケートの実物は、資料 1 として掲載したので、参照されたい。

に違いはなく、「状況説明」と「依頼」の位置を入れ替えただけである。

指示：次の状況でメールを書くとき、その内容は A と B のどちらがふさわしいと思いますか。下の設問 1～2 にご回答ください。

状況：あなたは大学生で、岩田保志教授の「経済学総論」を受講しています。先週月曜日の授業で「次週月曜日（7 月 7 日）の授業時に所定の用紙に手書きで記述したレポートを提出する」という課題が課されています。レポートはほぼ書き終えたのですが、昨日 7 月 5 日（土）、母親から祖母が骨折したとの連絡が入りました。祖母は救急外来で応急措置を済ませましたが、明日 7 月 7 日に精密検査と簡単な手術を受ける必要があります。父親は海外出張中で不在にしており、母親は体調を崩しているため、あなたは祖母の病院への付き添いを引き受けることにしました。経済学総論のレポートについては、岩田教授のメールアドレスが授業シラバスに書いてあったので、提出を一週間延期してほしいというお願いのメールを書くことにします。経済学総論は受講生が 100 名以上いて、あなたは岩田教授と直接話したことはありません。

図 1 指示・状況提示文

5. 結果と考察

まず、設問 1 の主な結果を述べる。8 段階の回答は 1 から 8 までの整数値で表現した（以下参照）。

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 圧倒的に A のほうがふさわしい | 2. かなり A のほうがふさわしい |
| 3. どちらかと言えば、A のほうがふさわしい | 4. 強いて言えば、A のほうがふさわしい |
| 5. 強いて言えば、B のほうがふさわしい | 6. どちらかと言えば、B のほうがふさわしい |
| 7. かなり B のほうがふさわしい | 8. 圧倒的に B のほうがふさわしい |

回答は（A）を強く支持する回答ほど小さな値となり、（B）を強く支持する回答ほど大きな値となる。このとき、回答の平均は 5.32 であり、全体の傾向として（B）を支持する結果が得られた。1 標本の t 検定によって中央値 4.5 との差を検定したところ、 $t = 6.41$ 、 $p < 10^{-8}$ であり、回答の平均値は中央値から有意に異なる結果が得られた。また、シャピロ・ウィルク検定によって正規分布との差を検定したところ、 $W = 0.882$ 、 $p < 10^{-8}$ であり、回答値の分布は正規分布とは有意に異なる結果が得られた。以上から、今回の「接点はあるが、弱い」相手に依頼をする場合には、依頼をした上で、状況を説明することが好まれるとの仮説を支持する結果となり、社会言語能力に関わる選択であったことが示唆された。

なお、図 1 で大学生 133 名の、図 2 において日本語教師養成講座受講生・修了生（社会人）13 名に対する、好まれる文章構成調査の結果をドット図にて示した。両図を比較してみると、参考のために実施した日本語教師養成講座生においても、6 の「どちらかと言えば、B のほうがふさわしい」、7「かなり B のほうがふさわしい」と回

答する人が多く、「依頼をした上で、状況説明をする」のを好むとの結果はおおよそ共通していた。

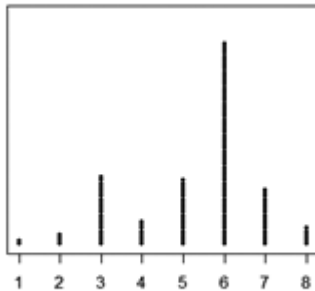


図2 大学生の結果

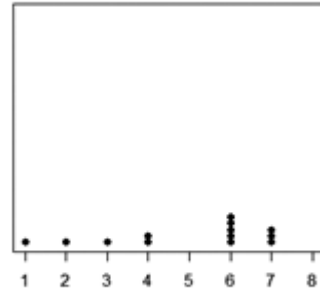


図3 日本語教師養成講座生の結果

なお、前回調査と本調査の結果を表2に記した。両研究結果から、接点の強弱によって、日本人（事務職員／大学生）に好まれる文章構成が異なることが判明した。これにより、依頼メールにおいては、相手との接点の強さに配慮した、文章構成に関する指導が肝要だと考えられる。

表2 前回調査と本調査の比較

	接点の強弱	結果（好まれる文章構成）
坂本・山下・谷（2021）	接点なし（大学生・大学生がインターンシップを希望する企業の社長）	「前置き」→「状況説明」→「依頼」
本研究	弱い接点（大学生・大学生が受講する、大規模クラスの科目担当教員）	「前置き」→「依頼」→「状況説明」

次に、調査対象者にメールの「受信者と送信者の関係」を、以下の4つの観点について5段階⁹で評価してもらった結果を、表3に記す。

- 1) 2人の接点の重さの度合い
- 2) 受信者にかかる負担の度合い
- 3) 依頼の突然さの度合い
- 4) 求められるフォーマルさの度合い

⁹ 5段階評価は、接点（5非常に強い—1まったく）、負担度（5非常に大きい—1まったく）、突然さ（5非常に突然—1まったく）、フォーマル度（5非常にフォーマル—1まったく）である。

表3 受信者と送信者の関係調査（接点・負担度・突然度・フォーマル度）

	まったく	あまり	どちらとも	やや	非常に
接点の強さの度合い	36(27.3)	76(57.6)	12(9.1)	7(5.3)	1(0.8)
負担の度合い	6(4.5)	32(24.2)	30(22.7)	53(40.2)	11(8.3)
突然さの度合い	1(0.8)	7(5.3)	8(6.1)	74(56.1)	42(31.8)
フォーマルさの度合い	2(1.5)	2(1.5)	9(6.8)	63(47.7)	56(42.4)

※総回答者数 132 名。上記数字は、「各項目の回答者数 (%)」を示す。

上記から、接点は「あまり強くない」が最多 76 (57.6%) で、「まったく強くない」が次点 36 (27.3%) であり、筆者らがアンケート作成にあたって想定した「接点はあるが、弱い」が概ね妥当だったことがわかる。また、負担度は「やや大きい」が 53 (40.2%) と最多だが、「あまり大きくない」が 32 (24.2%)、「どちらとも言えない」が 30 (22.7%)、「非常に大きい」が 11 (8.3%) と、捉え方に幅がありそうである。筆者らは、当初レポート課題の延長依頼は、教師にとって全くあり得ない話ではないため、今回の状況における負担度はそれほど高くないと予想をしていた。しかし、学生にしてみれば、成績に関わる期限のルール変更を頼まなければならない心理的抵抗や教師に対する申し訳なさ等を感じる依頼内容であることが推察される。突然度は「やや突然」が最多、「非常に突然」が次点で、両者を合わせ 87.9%を占めている。そして、フォーマル度は「ややフォーマル」「非常にフォーマル」の順に高く、この 2 つで 90.1%に達している。対象者間での開きはほとんど見られず、全体的に似た傾向が示された。

6. 日本語教育への応用と今後の課題

本結果の教育現場への応用と今後の課題を以下に述べる。

由比 (2015:148) は、フォーマルな場面で用いられるパソコンのメールでのタスク遂行を成功させる方策の一つとして、談話構成を予め正確に伝わるように組み立てることを挙げている¹⁰。前回調査と本研究の結果により、接点がなければ、状況説明を行った上で依頼をする配慮が必要だが、接点がやや強まると、まず、依頼をした上で、状況説明をするという文章構成が適切である可能性が示された。教師は、送信者と受信者との接点の強さを考慮し、構成に配慮した指導の必要性を認識する必要があるだろう。筆者らは、両研究にて用いたアンケートを題材にメール教材を作成し、文章表現などの授業で試用を始めている。

今後の課題を以下に四点挙げる。

一点目は、依頼メールの文章構成における分類方法を検討することである。例えば、2.1.2 で触れたように、宮崎 (2007) の「そこで、沖縄文化に詳しい岡本先生にイン

¹⁰ 由比ほか (2012) の著書『中級からの日本語プロフィシーライティング』では、「奨学金の申し込みのための志願書チェックの依頼を、日本語の先生に依頼する」との設定のもと、談話構成等の異なる 4 種のメール文を提示し、修正すべき点に線を引かせるパートを設けている。

レビューをお願いしたいと思い、メールを差し上げました」のような文の扱いである。筆者らは同文を「前置きの中に『依頼』が含まれるもの」と仮の定義をした上で、依頼メールのタスクを通じたコーパスである、金澤（2014）の JNS30 名分の産出文分析を試みた。その結果、9 名がこのような文を産出していたことがわかった。このタイプの文をはじめ、複数の構成要素が一文に内在しているケースの検討を深めていく必要がある。

二点目は、負担度についてである。今回の調査では、負担が「やや大きい」とする大学生が約 40%いた。筆者らは、当初レポート提出期限延長依頼は、教員にとって通常あり得ない出来事とまでは言えず、負担はそれほどないと考えていたため、本結果を予想と幾分異なると捉えている。分析を通して、負担だと感じるのが、1) メールを受信者である教員、2) 送信者である大学生、のいずれかをはっきりさせなければならないとの考えに至った。そこで、1) と 2) の区別が明確化される、大学生対象のアンケート調査を済ませ、現在分析を進めているところである。

三点目は、副次的調査（受信者と送信者の関係調査）を相対評価でも実施することである。本研究では、一つの状況設定を基にした絶対評価であったが、前回調査のアンケートと並べて示した上で、両者の関係（接点・負担度・突然度・フォーマル度）を判断してもらえば、より客観的な回答が期待できるだろう。

四点目は、ブラウン&レビンソンのポライトネス理論に関連付けた課題である。同理論では、フェイス・リスクの大きさを相手との 1) 距離（親疎）、2) 力関係（上下関係）、3) 事柄の負荷度の 3 要因で決まるとしているが、本研究では、1) と 2) を扱っていないため、この 2 点を含めて副次的調査を実施することを視野に入れたい。

参考文献

- (1) 国際交流基金「JF 日本語教育スタンダードとは」<<http://jfstandard.jp/summary/ja/render.do>>（2018 年 7 月 5 日閲覧）
- (2) 金澤博之（編）『日本語教育のためのタスク別書きことばコーパス』ひつじ書房
- (3) 熊谷智子・篠崎晃一（2006）「依頼場面での働き方における世代差・地域差」『言語行動における「配慮」の諸相（国立国語研究所報告 123）』、pp.19-54. くろしお出版
<https://repository.ninjal.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=1372&item_no=1&page_id=13&block_id=21>（2021 年 11 月 4 日閲覧）
- (4) 坂本勝信・山下浩一・谷誠司（2021）「依頼メールの社会言語能力と「構成」との関わりを探る—日本人事務職員への調査を通して—」『常葉大学外国語学部紀要』第 37 号、pp.35-49.
- (5) 生天目知美・劉雅静・大和啓子（2012）「日中韓の友人会話における依頼の談話展開」『筑波応用言語学研究』19 号、pp.15-29.
< <https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/records/28138#.YYMxrW3P02w>>（2021 年

11月4日閲覧)

- (6) 谷誠司・坂本勝信・山下浩一 (2021) 「「YNU 書き言葉コーパス」における日本
人大学生から教師への依頼メールの構成分析」『常葉大学外国語学部紀要』第 37
号、pp.51-66.
- (7) 野田尚史 (編) (2005) 『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお
出版
- (8) 松本善子・清水崇文・岡野久代・久保百世「気付きと選択 社会言語学的能力の
養成を目指す日本語教育の意義」南雅彦・浅野真紀子 (編) (2004) 『言語学と日
本語教育Ⅲ』くろしお出版、pp.41-58.
- (9) 宮崎玲子 (2007) 「電子メールにおける依頼の展開構造—日本人母語話者とタイ
人日本語学習者の対照研究—」『日本語・日本文化研究』第 17 号、大阪外国語
大学日本語講座、pp.175-184.
- (10) 由井紀久子・大谷つかさ・萩田朋子・北川幸子 (2015) 『中級からの日本語プロ
フィシエンシー ライティング』凡人者
- (11) 由井紀久子 (2015) 「ライティングにおける談話とプロフィシエンシー—E メール
の教 材化のために—」鎌田修・嶋田和子・堤良一 (編) 『プロフィシエンシー
を育てる 3 談話とプロフィシエンシー—その真の姿の探究と教育実践をめざし
て—』凡人社、pp.147-238.
- (12) 義永 (大平) 美央子 (2005) 「伝達能力を見直す」西口光一 (編) 『文化と歴史
の中の学習と学習者』凡人社
- (13) Bachman, L. F. (1990) . Fundamental Considerations Language Testing.
Oxford: Oxford University Press. (池田央、大友賢二 (監修) 1997 『言語テス
ト法の基礎』C. S. L. 学習評価研究所)
- (14) Canale, M. and M. Swain. (1980) Theoretical Bases of Communicative
Approaches to Second Language Teaching and Testing. Applied
Linguistics,1/1:1-47
- (15) Hymes,D. H. (1972) On communicative competence. J. B. Pride & J. Holmes
(eds.) Sociolinguistics. Harmondsworth : Penguin

資料1 調査に使用したアンケート

次の状況でAがBのメールを書くとき、そのときの状況について設問にご回答ください。（周囲と相談せずにご回答をお願いします。）

状況

あなたは大学生で、岩田保志教授の「経済学総論」を受講しています。先週月曜日の授業で、「次週月曜日の授業で、『経済学総論』を書かなくてはならない」という課題が課されています。レポートはほとんど書き終えていたのですが、昨日7月5日（土）、母親から祖母が骨折したとの連絡が入りました。祖母は救急外来で応急処置を済ませましたが、明日7月7日に整形外科と簡単な手術を受ける必要があります。父親は海外出張中で不在にしておき、母親は体調を崩しているため、あなたは祖母の病院への送迎と付き添いを引き受けることにしました。経済学総論のレポートについては、岩田教授のメールアドレスが授業シラバスに書いてあったので、提出を一通問延期してほしいというお願いのメールを書くことにします。経済学総論は受講生が100名以上いて、あなたは岩田教授と直接話したことはありません。

A 件名: お願い（経済学総論のレポート提出日延長について）

岩田保志先生

メールにて失礼します。

常葉大学経営学部1年（学籍番号：△△△△△）の〇〇と申します。
先生の経済学総論を受講させていただいております。

本日は、標記の件でお願いがありまして、ご連絡しました。

実は、7月5日（土）に祖母が骨折をしてしまいました。

救急外来で応急処置は済ませましたが、
精密検査と手術のために7日（月）に再度病院に行かなければなりません。
あいにく父は海外出張中で、母は体調を崩しているため、私が祖母の送迎と付き添いを
引き受けざるを得なくなりました。レポートはほとんど書き終えていたのですが、
このような状況でどうしても授業に出席できません。

つきましては、「経済学総論」のレポート提出期限を1週間延ばして、
7月14日（月）にさせていただくわけにはいきませんでしょうか。

勝手なお願いで恐縮ですが、ご配慮いただけますと幸いです。
なにとぞよろしくお願い申し上げます。

常葉大学経営学部1年
〇〇

B 件名: お願い（経済学総論のレポート提出日延長について）

岩田保志先生

メールにて失礼します。

常葉大学経営学部1年（学籍番号：△△△△△）の〇〇と申します。
先生の経済学総論を受講させていただいております。

本日は、標記の件でお願いがありまして、ご連絡しました。

用件から申します。

「経済学総論」のレポート提出期限を1週間延ばして、
7月14日（月）にさせていただくわけにはいきませんでしょうか。

実は、7月5日（土）に祖母が骨折をしてしまいました。

救急外来で応急処置は済ませましたが、
精密検査と手術のために7日（月）に再度病院に行かなければなりません。
あいにく父は海外出張中で、母は体調を崩しているため、私が祖母の送迎と付き添いを
引き受けざるを得なくなりました。レポートはほとんど書き終えていたのですが、
このような状況でどうしても授業に出席できません。

勝手なお願いで恐縮ですが、ご配慮いただけますと幸いです。
なにとぞよろしくお願い申し上げます。

常葉大学経営学部1年
〇〇

設問 この状況におけるメールの「受信者（岩田教授）と送信者（あなた）の関係」について、次のA～Dの4つの観点を5段階で評価し、当てはまるものに○を付けてください。

- A. 二人の接点の強さの度合い …………… 5. 接点は非常に強い 4. 接点はやや強い 3. どちらとも言えない 2. 接点はあまり強くない 1. 接点はまったく強くない
- B. 受信者にかかる負担の度合い …………… 5. 負担は非常に大きい 4. 負担はやや大きい 3. どちらとも言えない 2. 負担はあまり大きくない 1. 負担はまったく大きくない
- C. 依頼の突然さの度合い …………… 5. 非常に突然 4. やや突然 3. どちらとも言えない 2. あまり突然でない 1. まったく突然でない
- D. 求められるフォーマルさの度合い … 5. 非常にフォーマル 4. ややフォーマル 3. どちらとも言えない 2. あまりフォーマルでない 1. まったくフォーマルでない

